

LITTLE BIG

第79号 2025.7

発行：福島県立図書館 こどものへや
〒960-8003 福島市森合字西養山1番地
TEL 024-535-3218
<https://www.library.fcs.ed.jp/>

【ごあいさつ】-『LITTLE BIG 準備号』より-

この『LITTLE BIG』は、「子供だけど大人」「大人だけど子ども」という人たちへのメッセージです。図書館の司書たちが読んだ本の中から、気になる文章をピックアップしてお知らせします。みなさんの心のアンテナにひっかかったら、ぜひその文章が載っている本を読んでみてください。

【 Pieces - かけらたち - 】 本の中の言葉

当館の職員が読んだ本の中から、素敵な言葉、心に残った言葉を集めました。
みなさんの心にも届いたら、ぜひ手にとって読んでみてください。

◆別に友だちって、いなくていいなら無理につくらなくていいし、ひとりが好きって、悪いことじゃないっていうか、むしろ、自分で自分を満たせるってかっこいいと思う。でも、もし、友だちになりたいっていうやつらがいるんだとしたらさ……」

『3倍速ドッペルゲンガー』（久米絵美里／著 アリス館 2024.11 p113）

◆「誰かを理想と決めつけて、そのとおりにしようってのは、楽なやり方なんだと思うぞ。何もかもを信じ切るんじゃないくて、あくまでも自分の目で判断すべきだ」

『やなやつ改造計画』（吉野真理子／著 あすなろ書房 2025.1 p256）

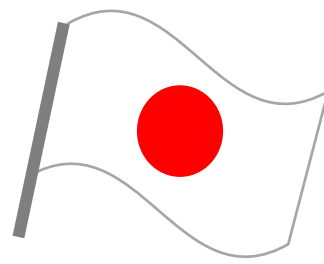
◆「お前らが困ってないからって、困ってる人をバカにすんな」

『わたしは食べるのが下手』（天川 栄人／作 小峰書店 2024.6 p200）

◆「なんかさ、わたしみたいな人間が言うのもあれだけど」と、朱美さんは前置きして、「人生って生まれや学歴で決まるもんだって思ってたんだけど、そんなことなかったわ。何歳になってもババアになっても、どうにでもできるんだってわかった。要は、やるかやらないかなんだよね」と言った。

「だから、あんただって、これからなんにだってなれるってこと」

『みかんファミリー』（柳月美智子／著 講談社 2024.8 p247）



Viva 大阪万博!

「EXPO 2025 大阪・関西万博」が4月13日～10月13日まで大阪の夢洲で開催されています。世界最大規模の木造建築「大屋根リング」をはじめ、各国のパビリオンはどれも圧巻です！これを機に世界の国々についての知識をぜひ深めましょう。おすすめの図書を紹介します。

■世界の文化

『食卓の世界史』
遠藤 雅司／著 筑摩書房
2023.11 383／エ

『世界文字の大図鑑』
青柳 正規／監修 西村書店
2023.10 801／コ

『13歳からの世界地図』
井田 仁康／編著 幻冬舎
2024.9 290／イ

■世界の神話・歴史

『世界の神話』
沖田 瑞穂／著 岩波書店
2022.8 164／オ

『香りと歴史 7つの物語』
渡辺 昌宏／著 岩波書店
2018.10 576／ワ

■世界の驚き！

『世界一くさい食べもの』
小泉 武夫／著 筑摩書房
2021.11 383／コ

『世界不思議地図』
佐藤 健寿／著 阿部 結
／絵 朝日新聞出版
2017.5 049／サ

＼YAの本棚から／

中高生のみなさん(YA)のためのコーナーから、おすすめの本を紹介します。

おとぎ話はなぜ残酷で ハッピーエンドなのか

ウェルズ 恵子／著
岩波書店 2024.12 【388/ウ】



「おとぎ話」は好きですか？最近ではホラー映画になったり、ディズニー映画のプリンセスが最後に国王になったり、現代の価値観に合わせてアレンジされることもありますね。でも、おとぎ話は長く人に語り伝えられてきたもの。ジェンダー観の変化や文化に左右されない、奥深いメッセージを伝えているのです。

おとぎ話は、飢餓や戦争が身近にあり、今より生きるのが大変だった時代に生まれました。この本ではおとぎ話を「人はどのように幸福にたどり着くのか」の物語としています。著者と一緒に、おとぎ話を読み解いてみましょう。

24 のひらめき！と僕らの季節

田丸 雅智／著
河出書房新社 2024.11 【913/タマ】



勉強や部活などで忙しい日々を過ごしている皆さんは、季節の移ろいを感じる機会も少ないかもしれません。そんな人にこそおすすめしたい本です。

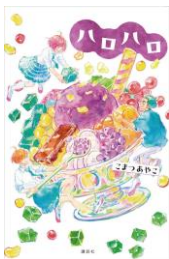
この本は、日本の四季をあらゆる言葉である二十四節気をテーマにした短編集です。立春から大寒までをひとつずつ取り上げた短いお話が24話収録されています。

春を告げて歩く人や言葉を食べて成長する蝶、太陽との綱引きなど、すべてのお話にちょっと不思議で面白いものが登場します。

どのお話も10ページ程度なので、あまり読書をしない人でも読みやすい1冊です。

ハロハロ

こまつ あやこ／著
講談社 2024.12 【913/コア】



高校生になったばかりの“のの花”は、オンライン英会話で知り合ったフィリピン人のジョシュア先生に惹かれ、フィリピンに興味を持つようになります。学校では、友達作りに出遅れ孤独な時間を過ごしていましたが、フィリピンの昔話がきっかけで、フィリピン人の家族がいる風羽と知り合い、家に誘われます。ジョシュア先生との英会話や風羽の家でのハロハロパーティーを体験し、ますますフィリピンが好きになったのの花は、勇気を出して文化祭のクラス企画にフィリピンカフェを提案しますが…。

好きな人が住む国をもっと知りたいという好奇心が、引っ込み思案だったのの花の世界を広げていきます。

メイジー・チェンのラストチャンス

リサ・イー／著 代田 亜香子／訳
作品社 2025.1 【933/イリ】



中国系アメリカ人のメイジーは、12歳の夏休みに大都会ロサンゼルスから母の生まれ育った小さな田舎町ラストチャンスにオパ(祖父)の看病のため、帰ることになりました。オパとオマ(祖母)が先代から受け継いで切り盛りしている中華料理店ゴールデンパレスの手伝いをする中で、町の人々や家族と交流を深めていきます。ところが、人種を理由に同世代の女の子たちからいじめられる態度をとられたりすることもしばしば。そんな折、中国からアメリカに渡ってきた移民の料理人ラッキーの苦難の物語をオパから聞いたことをきっかけに、店の歴史や自分のルーツに興味をもつようになっていきます。ある日、ゴールデンパレスでは奇妙な事件が起こり…